

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第7週)

(令和8年2月9日～令和8年2月15日)

令和8年2月19日

定点報告(上段:定点当たり/下段:報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		4週	5週	6週	7週	合計		
定点報告	インフルエンザ	11.00	26.00	33.67	30.67	—	—	—
		33	78	101	92	397	2,558	1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.00	5.67	4.67	0.33	—	—	—
		9	17	14	1	73	1,139	3,622
	RSウイルス感染症	—	1.00	0.50	1.00	—	—	—
		0	2	1	2	6	156	309
	咽頭結膜熱	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	78	337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.50	1.50	1.00	1.00	—	—	—
		5	3	2	2	21	243	657
	感染性胃腸炎	4.00	5.00	1.00	8.50	—	—	—
		8	10	2	17	58	430	610
	水痘	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	1	10	6
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	15	952
	伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	141	0
	突発性発しん	0.50	—	—	0.50	—	—	—
		1	0	0	1	3	59	182
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	4	19	
流行性耳下腺炎	0.50	—	—	—	—	—	—	
	1	0	0	0	1	10	13	
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	2	9	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	—	—	—	—	—	—	
	1	0	0	0	2	16	1	
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	3	42	16	
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	
	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザ入院	—	—	1.00	2.00	—	—	—	
	0	0	1	2	5	39	19	
新型コロナウイルス感染症(入院)	6.00	3.00	4.00	2.00	—	—	—	
	6	3	4	2	16	56	120	
急性呼吸器感染症(ARI)	85.33	113.33	107.33	98.00	—	—	—	
	256	340	322	294	1,695	8849	—	
全数報告	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	1	1	2	1	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザ の流行が見られます。
全数把握疾患	侵襲性肺炎球菌感染症(80代1名) の報告がありました。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 本県における第7週の定点当たり報告数は51.44と、5週ぶりに前週と比べ減少しました。10代以下の若年者を中心に報告が多く、B型が約9割を占めています。警報は継続中です。インフルエンザウイルスに感染すると、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。B型の流行が見られることから、今シーズンで既に感染した方も再感染する恐れがあります。今後の急激な感染拡大を防ぐため、引き続き基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。 2週連続で前週と比べ減少しました。全国と比べると報告数が多い状況です。他疾患と同様、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
感染性胃腸炎	郡山市を中心として報告の多い状況が続いています。 感染性胃腸炎は、秋から冬にかけて流行する感染症で、1～3日程度の潜伏期間の後、嘔吐、下痢、腹痛等の症状が生じます。汚染された食品や、病原体が直接口から入ることで感染することから、トイレの後や、調理・食事の前に、石けんと流水で十分な手指消毒を行いましょ。
侵襲性肺炎球菌感染症	本県で前週に引き続き1名の報告がありました。 侵襲性肺炎球菌感染症は、肺炎球菌が髄液や血液に侵入することで生じる感染症です。小児及び高齢者を中心に飛沫感染により感染し、髄膜炎等を伴う肺炎や、敗血症を生じます。予防にはワクチン接種が有効ですので、特に定期接種対象の方は早期のワクチン接種を推奨します。

引き続き感染拡大を防ぐため、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の継続をお願いします。
福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。
「#7119」福島県救急電話相談 「#8000」福島県子ども救急電話相談 にご相談ください。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第7号